

## 第2章 県民の健康の現状

### 1 人口の推移

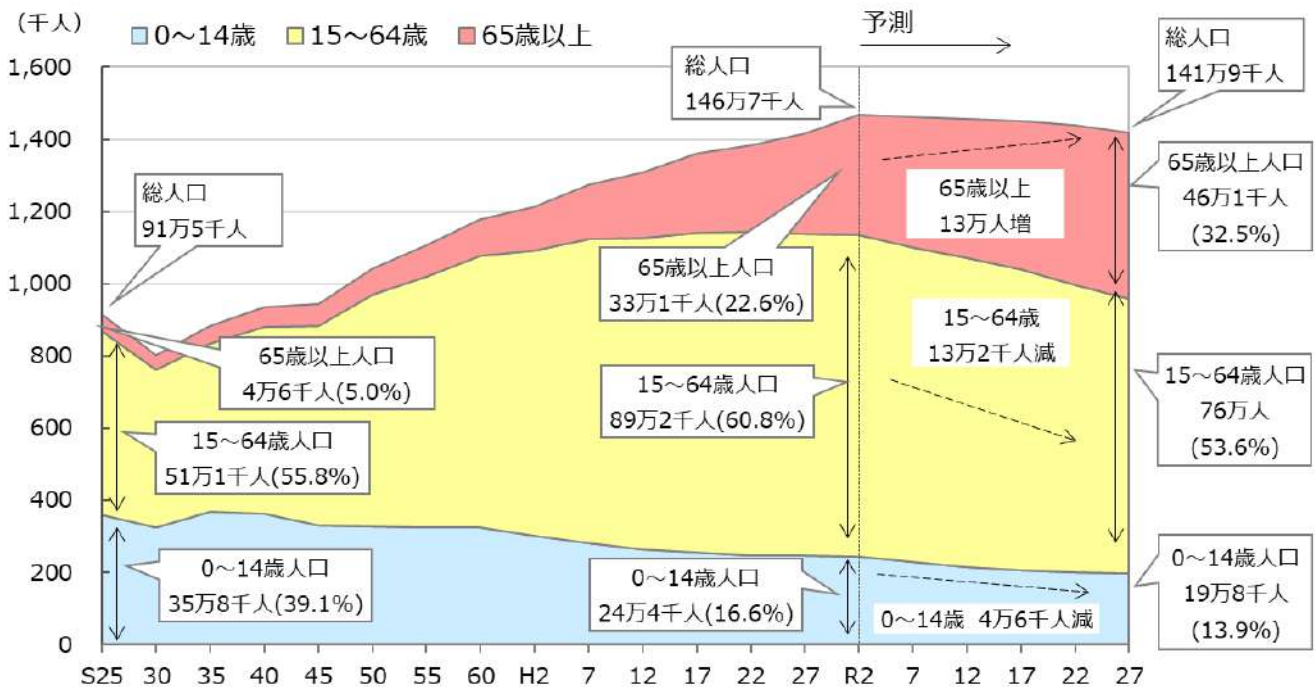
沖縄県の人口は、5年ごとに見ると令和2年の約146万7千人をピークにそれ以降減少に転じ、令和27年には約141万9千人となる見込みです。

年齢構成別で見ると、年少人口(0～14歳)及び生産年齢人口(15～64歳)は減少していく一方、高齢者人口(65歳以上)は増加し続ける見込みとなっています。

特に人口に占める65歳以上の割合(高齢化率)は、令和2年は22.6%(全国:28.6%)ですが、令和27年には32.5%(全国:36.3%)になり、全国より低い水準で推移する見込みではあるものの、県民の3～4人に1人が高齢者になると推測されます。(図3)

また、令和2年の一般世帯総数は約61万3千世帯で、そのうち世帯主が65歳以上となる世帯(高齢者世帯)は約19万4千世帯となっています。高齢者世帯は今後も増加していく見込みであり、特に高齢者単独世帯の割合が大きくなることを見込まれています。(表1)

図3 沖縄県人口推移と予測(年齢3区分別)



(出典) 総務省統計局「国勢調査報告」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(令和5(2023)年推計)」

表 1 高齢者世帯数の推移

(単位：世帯)

	平成17年 (2005)	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	令和2年 (2020)	令和7年 (2025)	令和12年 (2030)	令和17年 (2035)	令和22年 (2040)
総世帯（一般世帯）	486,981	519,184	559,215	613,294	610,409	624,538	633,682	633,782
65歳以上世帯主	121,392	136,863	162,743	194,133	217,459	232,049	245,764	262,338
高齢者単独世帯	34,587	40,390	51,710	68,601	77,151	85,712	94,538	104,328
高齢者夫婦世帯	30,802	35,135	42,640	52,444	56,123	59,685	62,416	66,213
高齢者世帯（その他）	56,003	61,338	68,393	73,088	84,185	86,652	88,810	91,797
総世帯に占める高齢者単独世帯割合	7.1%	7.8%	9.2%	11.2%	12.6%	13.7%	14.9%	16.5%
総世帯に占める高齢者夫婦世帯割合	6.3%	6.8%	7.6%	8.6%	9.2%	9.6%	9.8%	10.4%
総世帯に占める高齢者単独世帯割合（全国）	7.9%	9.2%	11.1%	12.1%	13.9%	14.9%	16.1%	17.7%
総世帯に占める高齢者夫婦世帯割合（全国）	9.5%	10.4%	11.7%	12.1%	12.5%	12.5%	12.7%	13.5%

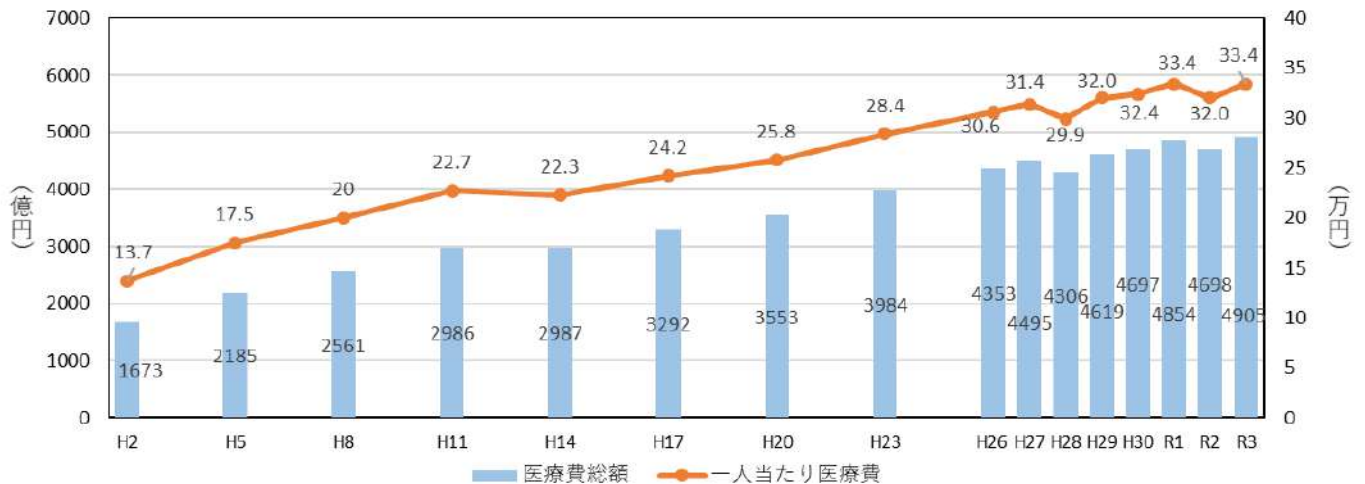
(出典) 令和2年度まで総務省統計局「国勢調査」  
令和7年度以降国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計(都道府県別 2019年推計)」

## 2 医療費の状況

高齢化や医療技術の高度化、悪性新生物（がん）・循環器病等の生活習慣病の増加等により医療費は増加し、令和3年度の県民医療費は約4,905億円、1人当たりの県民医療費は33.4万円となっており、いずれも増加傾向が続いています。（図4）

全国に比べ、入院医療費が高く、入院外医療費が低いという特徴があります。

図4 県民医療費の年次推移（H26まで3年毎に公表されていたが、H26以降は毎年公表となっている）



(出典) 厚生労働省「国民医療費」

### 3 平均寿命の状況

令和2年の沖縄県の平均寿命は、男性が80.73年、女性が87.88年で、平成27年に比べ男性0.46年、女性0.44年延伸しました。しかし、全国の伸び（男性0.72年、女性0.59年）を下回っており、全国順位は男性が36位から43位へ、女性は7位から16位へ下がっています。（図5・図6）

図5 平均寿命の推移

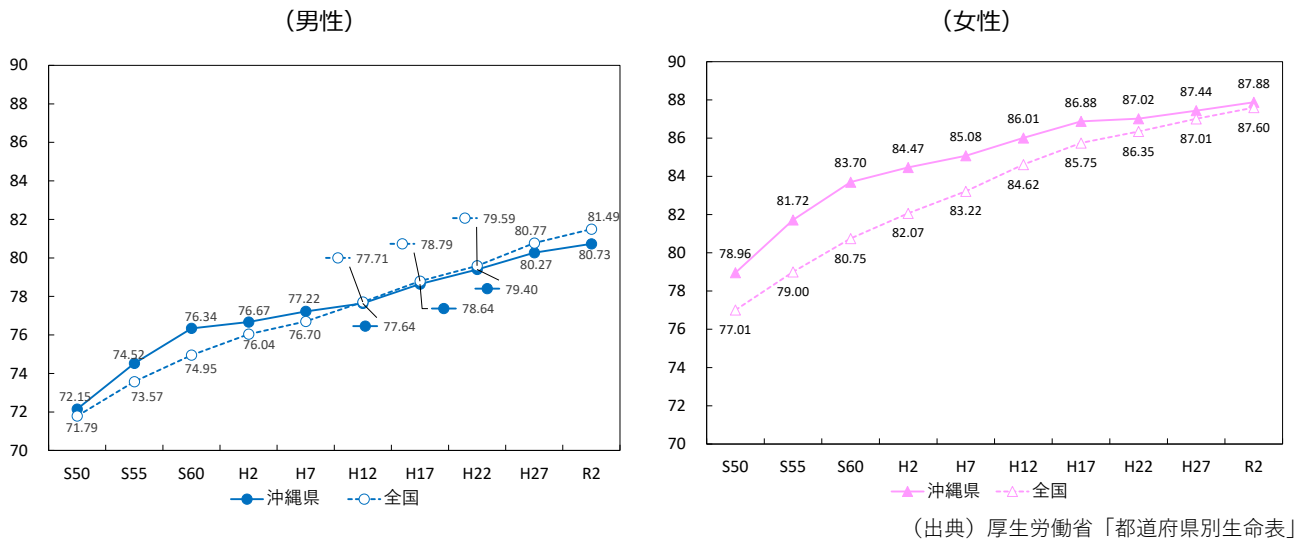
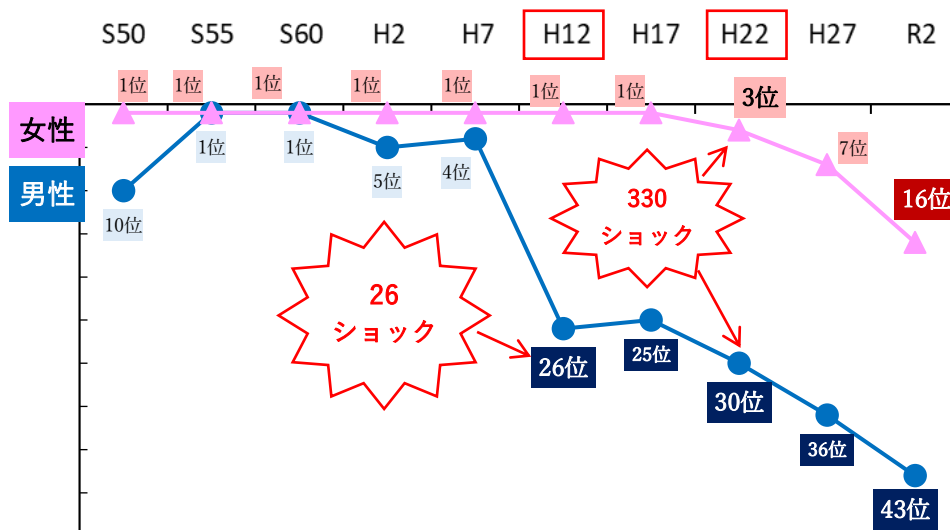


図6 平均寿命の全国順位の推移



## 4 健康寿命の状況

令和元年の沖縄県の健康寿命（日常生活に制限のない期間の平均）は、男性が72.11年、女性が75.51年で、平成28年に比べ男性0.13年、女性0.05年延伸しました。しかし、全国の伸び（男性0.54年、女性0.59年）を下回っており、全国順位は男性が26位から40位へ、女性は10位から25位へ順位が下がっています。（図7）

また、女性の平均寿命及び健康寿命は男性より長いですが、不健康な期間も女性の方が1.4倍（男性：8.64年、女性：12.43年）長い状況です。（図8）

図7 健康寿命の推移

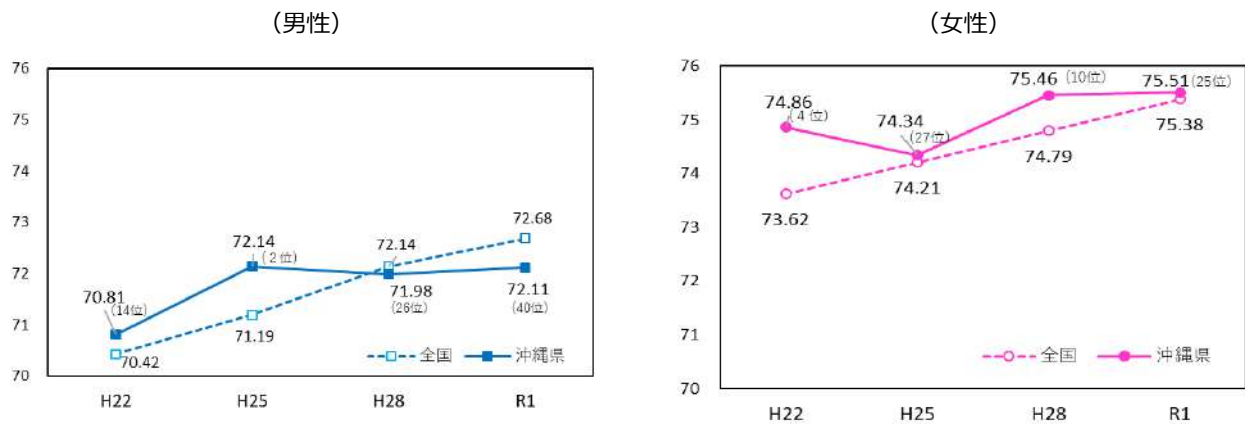
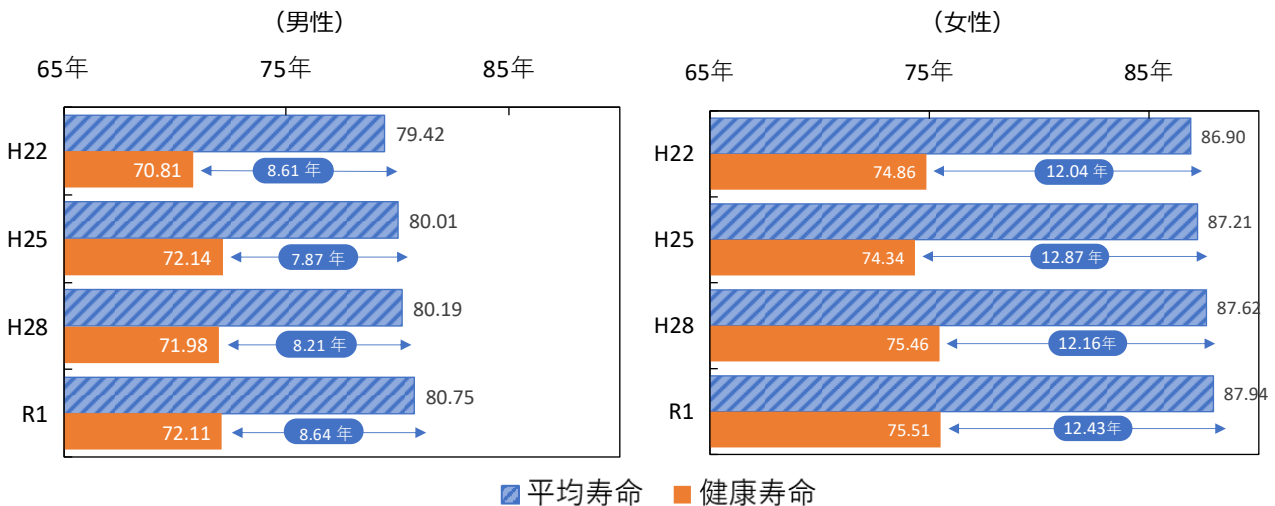


図8 平均寿命・健康寿命・不健康な期間の推移



■ 平均寿命 ■ 健康寿命

※「平均寿命 = 健康寿命 + 不健康な期間」として算出しており、「都道府県別生命表」で公表される平均寿命とは必ずしも一致しない。

図7・図8：（出典）厚生労働省（国民生活基礎調査の調査結果、人口動態統計等をもとに厚生労働科学研究において算出）

## 5 死亡の状況

令和4年の沖縄県の総死亡数は15,054人で死因別では、悪性新生物（がん）が23.0%、心疾患（高血圧性を除く）が13.3%、老衰が11.4%、脳血管疾患が6.8%の順になっています。生活習慣病である悪性新生物（がん）、心疾患、脳血管疾患で全体の43.0%（小数点以下の影響により合計が一致しない）を占めています。（図9）

主要死因別の年次推移を見ると、悪性新生物（がん）、心疾患、脳血管疾患が増加傾向です。（図10）

また、20~64歳の年齢調整死亡率は減少し、改善はしているものの、令和3年は男性345.9、女性150.9で、全国比は男性1.37倍（全国253.1）、女性1.19倍（全国126.9）と、全国との差が拡大傾向です。特に大腸がん、子宮がん、糖尿病、心疾患、脳血管疾患、肝疾患等の年齢調整死亡率が高い状況にあります。（図11・表2）

図9 沖縄県死因別構成割合（R4）

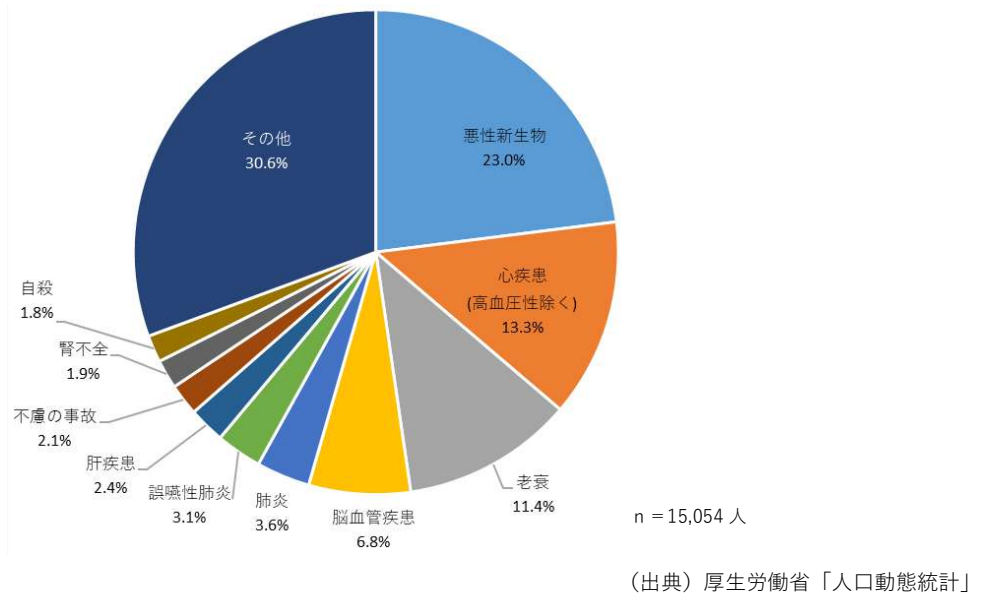


図10 主要死因別の粗死亡率の推移

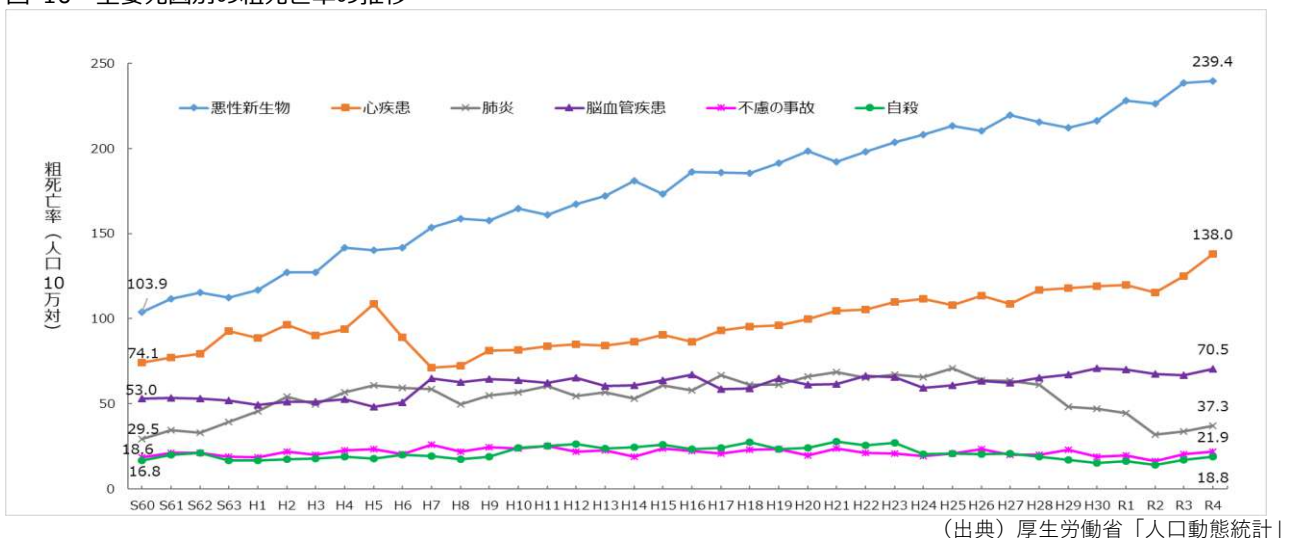
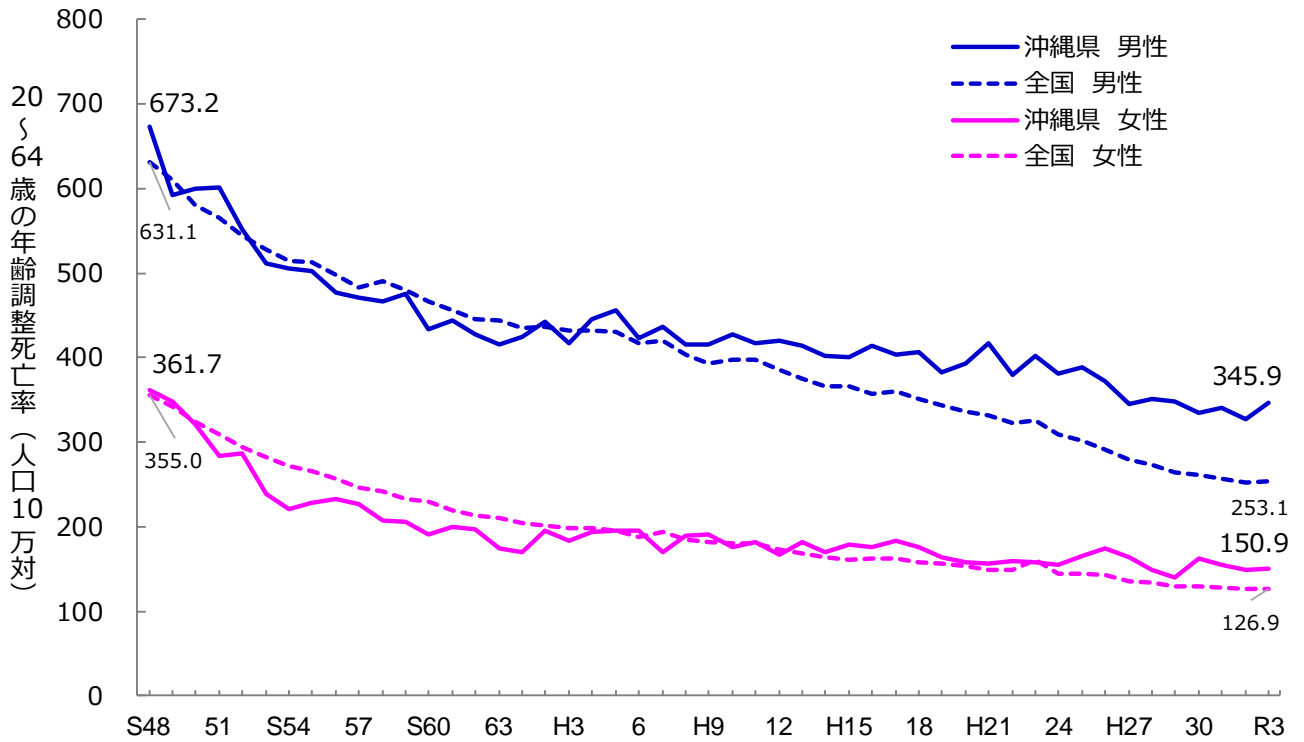


図 11 20～64歳の年齢調整死亡率の推移



(出典) 厚生労働省「人口動態統計特殊報告」、「人口動態統計」から県算出

表 2 沖縄県における主要死因の年齢調整死亡率及び年齢階級別死亡率の都道府県順位 (R2)

死因	年齢調整死亡率																						
	総数	20-64歳	75歳以上	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80-84歳	85-89歳	90-94歳	95歳以上
男	11	46	1	1	42	1	17	13	16	4	31	44	47	47	46	45	44	10	17	6	1	1	10
全死因	2	40	1	1	46	1	1	40	24	27	32	35	46	39	42	45	32	31	2	5	1	1	1
悪性新生物	1	8	1	1	-	-	-	-	-	1	39	35	41	38	3	7	2	2	3	1	2	1	4
胃の悪性新生物	36	43	15	7	-	-	-	1	1	43	1	28	44	43	24	43	42	40	46	32	43	5	8
大腸の悪性新生物	2	8	3	1	-	-	-	-	-	1	1	1	35	1	13	20	15	36	1	1	16	18	3
気管、気管支、肺の悪性新生物	46	46	39	33	-	-	-	1	1	1	41	1	43	28	41	45	47	47	45	37	43	4	15
糖尿病	10	44	3	3	1	1	1	32	34	45	31	46	47	41	43	37	30	27	16	14	2	2	7
心疾患	34	42	30	24	1	1	1	1	43	35	42	47	46	38	46	35	39	32	28	36	32	11	34
虚血性心疾患	18	26	15	6	-	-	-	1	1	1	37	46	33	30	29	21	36	3	16	14	16	5	33
急性心筋梗塞	19	10	22	11	1	1	1	1	1	35	1	16	14	18	8	19	23	21	26	16	13	12	44
不整脈及び伝導障害	1	36	1	1	1	1	1	1	1	44	1	1	38	29	40	30	6	5	1	4	1	1	1
心不全	28	42	23	8	1	1	1	1	38	47	20	46	9	29	45	34	36	24	42	11	26	8	22
脳血管疾患	33	45	17	9	1	1	1	-	1	45	47	24	46	12	36	44	42	26	16	30	4	16	32
脳内出血	26	42	24	6	-	-	-	-	-	1	1	1	1	38	38	46	21	41	30	44	23	30	2
脳梗塞	9	35	6	2	-	-	1	1	1	47	1	1	29	47	12	22	11	45	3	33	20	5	2
大動脈瘤及び解離	4	24	4	1	1	1	1	1	1	43	1	1	1	22	44	11	16	4	1	4	4	3	7
肺炎	47	40	47	15	1	-	-	-	-	1	1	1	1	1	42	36	17	35	4	47	41	45	47
慢性閉塞性肺疾患	47	47	47	47	1	-	1	1	1	47	47	47	47	47	47	47	44	44	47	44	38	47	47
肝疾患	22	42	4	4	-	1	47	-	1	1	1	1	1	41	44	37	46	43	2	21	18	3	21
腎不全	1	14	1	1	33	1	39	32	41	15	41	5	10	24	3	30	16	19	34	1	1	1	1
不慮の事故	26	10	41	12	-	-	1	1	10	3	2	20	11	5	40	30	46	47	7	42	39	31	24
自殺	2	45	1	1	43	7	28	6	39	6	31	41	44	43	47	36	44	19	12	25	5	1	1
全死因	13	40	4	1	36	1	1	1	27	1	32	11	25	43	41	23	40	22	3	22	8	34	1
悪性新生物	2	44	1	1	-	-	-	1	1	1	39	36	1	44	45	31	23	1	18	3	2	1	1
胃の悪性新生物	44	45	29	5	-	-	-	1	1	1	29	16	38	7	47	45	47	40	43	7	47	1	10
大腸の悪性新生物	1	13	4	1	-	-	-	-	-	1	1	1	1	27	41	25	6	10	1	1	14	13	22
気管、気管支、肺の悪性新生物	17	25	13	4	-	-	-	1	1	38	1	17	38	45	11	16	13	25	34	35	11	2	4
乳房の悪性新生物	47	44	47	40	-	-	-	1	1	35	40	44	31	39	20	44	45	27	47	31	47	21	1
子宮の悪性新生物	46	47	46	19	-	-	-	1	1	1	42	47	1	39	47	41	43	20	47	39	17	41	38
糖尿病	2	42	2	1	41	1	1	1	1	44	39	44	10	45	2	29	47	12	9	23	9	2	1
心疾患	29	36	29	7	-	1	1	1	1	1	31	23	1	42	43	15	23	31	26	26	29	12	
虚血性心疾患	27	34	29	8	-	-	-	1	1	1	1	1	1	1	47	31	3	6	35	20	31	28	
急性心筋梗塞	12	9	13	4	1	1	1	1	1	1	46	1	1	1	20	1	23	10	29	28	4	3	
不整脈及び伝導障害	1	40	1	1	1	1	1	1	1	45	1	1	1	47	1	32	35	2	10	5	4	1	
心不全	15	40	11	3	1	1	1	1	1	45	28	42	39	43	38	13	5	29	21	12	1	10	
脳血管疾患	36	39	35	11	-	1	1	1	1	44	1	27	1	46	24	37	28	27	35	38	5	46	
脳内出血	1	24	1	1	-	-	-	-	-	1	45	1	45	41	38	1	1	30	14	2	1	25	
脳梗塞	47	44	46	18	-	-	-	1	1	1	1	1	1	46	37	44	5	46	37	41	46	45	
大動脈瘤及び解離	1	23	1	1	1	1	1	1	1	45	41	1	24	8	7	8	7	8	17	1	1	1	
肺炎	47	41	47	32	-	-	-	-	-	1	1	1	1	1	1	47	27	19	36	33	46	46	
慢性閉塞性肺疾患	47	47	47	47	-	1	1	1	1	44	34	47	37	47	45	46	37	47	45	42	43	42	
肝疾患	40	44	36	13	1	1	1	1	1	1	1	1	38	43	38	45	9	34	47	42	47	20	
腎不全	1	12	1	1	1	36	1	1	29	1	44	30	30	16	24	16	6	12	5	2	3	1	
不慮の事故	4	19	3	3	-	-	-	41	5	41	8	7	41	30	6	14	25	28	1	10	7	6	
自殺																							

注1) 順位は低率順である。

1～5位 都道府県順位

43～47位 都道府県順位

注2) 年齢調整死亡率と年齢階級別死亡率の順位は、人口動態統計と国勢調査不詳按分人口より算出。小数点1位以下の数値で順位をつけているため、人口動態統計特殊報告「令和2年(2020)都道府県別年齢調整死亡率」から計算した結果と一致しない場合がある。  
年齢調整死亡率の基準人口は平成27年(2015)モテル人口



## 6 介護の状況

要介護（要支援）認定者数は、増加傾向にあり、令和5年3月末現在で約6万3千人となっています。そのうち65歳以上の第1号被保険者は約6万1千人であり、認定者数は増加傾向が続いています。（表3）

介護費用額も、増加傾向にあり、令和4年度の総額は約1,115億円です。（表4）

介護を要する状態となった理由として最も多いのは認知症（16.6%）で、次いで脳血管疾患、骨折・転倒の順になっています。（表5）

表3 要介護(要支援)認定者数の推移

(単位：人)

	平成26年 3月末	平成27年 3月末	平成28年 3月末	平成29年 3月末	平成30年 3月末	令和元年 3月末	令和2年 3月末	令和3年 3月末	令和4年 3月末	令和5年 3月末
要介護認定者数	52,120	54,158	55,979	55,774	56,717	58,114	59,276	60,991	62,030	62,671
うち第1号被保険者数(A)	50,187	52,292	54,190	54,037	54,980	56,373	57,599	59,352	60,433	61,107
第1号被保険者数(B)	262,062	273,068	285,144	295,759	305,989	316,039	324,554	332,780	340,001	344,101
認定率(A/B)	19.2%	19.1%	19.0%	18.3%	18.0%	17.8%	17.7%	17.8%	17.8%	17.8%

(出典) 厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報（令和3,4年度のみ「介護保険事業状況報告」月報）

表4 介護費用額の推移

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
費用額 (百万円)	97,292	98,536	101,459	103,281	106,370	108,732	111,015	111,450
在宅サービス (百万円)	61,165	62,233	64,059	65,024	67,088	68,284	70,247	70,370
居住系サービス (百万円)	6,128	6,266	6,660	6,835	7,021	7,442	7,798	8,229
施設サービス (百万円)	29,999	30,037	30,740	31,422	32,262	33,005	32,970	32,851

(出典) 厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報（令和3,4年度のみ「介護保険事業状況報告」月報の12か月累計）

表5 現在の要介護度別にみた介護が必要となった主な原因(上位3位)

(単位：%)

2022(令和4)年

現在の要介護度	第1位	第2位	第3位
総数	認知症 16.6	脳血管疾患（脳卒中） 16.1	骨折・転倒 13.9
要支援者	関節疾患 19.3	高齢による衰弱 17.4	骨折・転倒 16.1
要支援1	高齢による衰弱 19.5	関節疾患 18.7	骨折・転倒 12.2
要支援2	関節疾患 19.8	骨折・転倒 19.6	高齢による衰弱 15.5
要介護者	認知症 23.6	脳血管疾患（脳卒中） 19.0	骨折・転倒 13.0
要介護1	認知症 26.4	脳血管疾患（脳卒中） 14.5	骨折・転倒 13.1
要介護2	認知症 23.6	脳血管疾患（脳卒中） 17.5	骨折・転倒 11.0
要介護3	認知症 25.3	脳血管疾患（脳卒中） 19.6	骨折・転倒 12.8
要介護4	脳血管疾患（脳卒中） 28.0	骨折・転倒 18.7	認知症 14.4
要介護5	脳血管疾患（脳卒中） 26.3	認知症 23.1	骨折・転倒 11.3

注：「現在の要介護度」とは、2022(令和4)年6月の要介護度をいう。

(出典) 厚生労働省「国民生活基礎調査」